

講義名	憲法（2年生以上）			授業形態	
担当教員	則武 立樹	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

「日本国憲法」と聞くと、何か難解で理解しづらい「法」のように思えるかもしれない。しかし、日本という国家の構造上、法の中でも一番強い力を持つものが日本国憲法なのである。では、憲法が私たちにくれていること、逆に私たちの行動を制限していることって何なのか？憲法はという形でこの社会に溶け込んでいるのか？こうした今まで深く考えてこなかったであろう「憲法」に真正面から向き合い、次世代を担う皆さんが「憲法」を理解できるよう、様々な生活の中でのエピソードを交えつつ授業を展開します。

到達目標

1. 日本国憲法の規定が私たちの暮らしとどのように関係しているのかを説明できる。
2. 日本国憲法の「人権」規定が保障する内容とその限界を説明できる。
3. 「人権」を保障するための制度としての統治機構のあり方を説明できる。

提出課題

授業時に複数回コメントカードの提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次回授業内にて講評を行う。

評価の基準

- ・平常点（授業中の問答、コメントカードの提出状況およびその内容）（30％）
 - ・到達度の確認（授業内試験）（70％）
- 上記の評価項目を総合的に判断して最終的な成績を算出する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本科目では、受講生が法学初学者であることを念頭に、抽象的で難解だと思われる「法」の話を出来る限り詳しく解説し、また、私たちの暮らしのなかで実際に生じている具体的問題を取り上げることで、受講生の皆さんに「日本国憲法」というものをより身近に感じながら学んでもらう予定である。わからない部分がある場合にはそのまますず、積極的に講師に質問してほしい。
- ・授業中の私語、スマートフォン及びパソコンなどの電子機器の操作等、授業と関係のない行動は認められない。悪質である場合には退室を命じるほか、減点の可能性もあるので注意すること。

教科書

.使用しない。.

参考図書

.なし。.

その他

授業計画

- 第1回 ガイダンス なぜ私たちは憲法を学ぶ（必要がある）のか？
- 第2回 人権総論 憲法が保障する「人権」とは何か？
- 第3回 法の下での平等 ことも、女性、LGBTQ+を巡る差別に対して憲法はどう扱っているのか？
- 第4回 精神的自由 思想・良心の自由、信教の自由（「心」の自由を保障する）
- 第5回 精神的自由 表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由（「行動」の自由を保障する）
- 第6回 経済的自由 職業選択の自由
- 第7回 社会権 私たちの「暮らし（生活）」を憲法はどの程度保障してくれているのか？
- 第8回 社会権 「教育を受ける機会」をひとりひとり平等に保障するために
- 第9回 参政権 日本の政治の未来は誰が握っているのか？
- 第10回 統治機構総論 いかにして国家権力を抑制しているのか？
- 第11回 国会 「立法」という国家権力を考える
- 第12回 内閣 「行政」という国家権力を考える
- 第13回 裁判所 「司法」という国家権力を考える
- 第14回 地方自治 地方の政治はここに住む私たちが決めるべき
- 第15回 到達度の確認とまとめ（授業内試験）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> W：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回45時間の授業外学修が求められる。まず予習として、各回のテーマについて、インターネット等を用いてどのような問題が発生しているのかを調査しておくこと、そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。また、日常生活での心構えとして、憲法に関する新聞記事やニュースに積極的に触れることも重要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、「流通科学大学学則」に基づき、在籍所属学部学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、本学および所属学部学科の学生として卒業時に身につけておくべき資質・能力を身につけたものとみなし、「学士（所属学部学科にならう）」の学位を授与します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

コメントカードの活用により、一方的な講義形式ではなく、学生自身主体的に考えられるよう、双方向でのやり取りを行う。

実務経験の有無及び活用

備考